

●発行所／独立行政法人国立病院機構 盛岡医療センター

●発行責任者／病院長 篠崎 賀

令和7年10月

〒020-0133 盛岡市青山1-25-1 TEL:019-647-2195 Fax:019-646-1195 <https://morioka.hosp.go.jp/>

院長就任のご挨拶

篠崎 賀



10月は暦の上では晩秋ですが、やっと秋の空気を感じはじめた今日この頃です。私は10月1日をもって国立病院機構盛岡医療センター院長を木村啓二名誉院長から引き継いだ篠崎賀です。会津若松に生まれ、前任地の国立病院機構仙台医療センターで19年間、循環器内科を標榜してきました。加えて、救急医療とその若手スタッフの育成にも大きなエネルギーを注いで参りました。呼吸器疾患の治療に定評のある盛岡医療センターにおいて、さらに治療の幅を広げて、この盛岡の地域医療をさらに盛り上げていきたいと考えております。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

当院の病院機能は時代と共に変わってきました。明治の陸軍病院時代、戦後の結核療養所時代、高度経済成長期のリハビリテーション医療、令和の小児重症心身障害者医療と小児救急医療の開始、COVID-19診療と続きます。そして今、急速な高齢化時代に突入しました。社会と医療の常識が刻々と変わりつつあります。しかし、いつの時代でも共通することは、病に苦しむ患者さんを助けることが私たち医療者の基本であるという原則です。私たちは地域に根差し、地域の患者さんのために地域の先生方と共に歩んでいきたいと考えております。

現在の当院の具体的な機能をご案内いたします。木村名誉院長時代には岩手県アレルギー疾患医療拠点病院として小児アレルギー・免疫疾患分野において全県から患者を受け入れるようになりました。整形外科は脊椎疾患をはじめ、全ての整形外科疾患を治療対象とし、毎年全身麻酔300件～400件の手術を実施しています。リウマチ内科は膠原病疾患に対して最新の分子標的薬治療を行っております。脳神経外科ではパーキンソン病等の不随意運動を示す患者さんへの脳深部刺激療法を岩手医大と共同で行っております。また、難治性疼痛に対する脊髄刺激療法、重い痙攣に対するバクロフェン髓腔内投与療法も併せて実施できる県内唯一の病院です。さらに、呼吸器・アレルギー科は気管支喘息・睡眠時無呼吸症候群の患者さんが全県から来院します。また、当院は岩手県結核医療ネットワークの中心です。循環器内科では冠動脈の動脈硬化を調べるCTは勿論のこと、心臓の筋肉内の性質も評価できる心臓MRIを実施しており、その実施件数は県内最大を誇っております。

当院は地域の皆様と共に歩むために様々な試みを繰り返してきましたが、これまで以上に地域に貢献するために、地域の患者さんが笑顔になるように皆様からの率直なご助言を常にお待ち申し上げております。



院長退任のご挨拶

記録的な猛暑が終わり爽やかな秋を迎える今日この頃ですが、地域の皆様におかれましては健やかにお過ごしのことと存じます。また、日頃より独立行政法人国立病院機構盛岡医療センターの運営につきまして、ご理解とご支援を賜り心より御礼申し上げます。

さて、私は平成31年4月から令和7年9月までの6年半の間院長を務めてまいりましたが、9月30日付けで定年延長が終了し退任しました。この間、当院は平成31年4月に小児科外来開設(この1か月前の3月1日に病院名を盛岡病院から盛岡医療センターに改称)、同年(令和1年)6月重症心身障がい者病棟開棟、同年11月岩手県アレルギー疾患医療拠点病院指定(岩手医科大学と当院の2病院のみ)、令和2年10月循環器内科常勤医が赴任し診療を開始、令和3年6月より脳神経内科外来の一般外来化、同年10月には1.5テスラMRIの更新、令和6年2月に電子カルテ導入と職員宿舎2棟の解体完了、同年10月には機能的脳神経外科医が赴任し脳神経外科外来を開設、令和7年2月に地域包括医療病棟開棟など、当院の機能は少しずつ拡大してきました。これらの変化に対応して医師・看護師・薬剤師・放射線技師・リハビリ部門・管理栄養士・臨床工学技士・医療ソーシャルワーカーなど多くの部門で増員がなされました。救急医療にも以前より積極的に取り組み、この6年間で救急受け入れ患者数600人→1,800人/年、救急車受け入れ台数400台→1,200台/年(盛岡医療圏での救急車受け入れ実績は岩手県立中央病院、盛岡赤十字病院に次いで第3位)、小児救急輪番もコロナ禍の影響で3回→8~9回/月に増加しました。これらの変化を通して、当院の提供する医療の質と患者サービスにおいて進歩が得られたと考えています。

また、医療以外でも当院が地域に少しでも貢献できるように、近隣住民の通学通勤路にもなっている南側正門から北側職員出入り口にかけての安全性向上のため人感センサー付き照明を整備し、正面玄関前駐車場の照明の数も倍増させました。さらに、令和2年コロナ禍が始まってからは11月上旬~2月上旬にかけて日没が17時前になる冬期に、職員はもとより帰路に就く学生や病院の近くを通る方の心がわずかでも明るくなるように、敷地内桜の木3本と重症心身障がい者病棟南側の庭にウインターイルミネーションを施しています。敷地内樹木や雑草の管理も以前よりこまめに行い、緑あふれる清潔な病院と思ってもらえるよう努力しました。皆様から不要となったこいのぼりや五月人形、雛人形などを寄贈してもらい、季節に合わせ病院内外に展示することによって、より親しみやすい病院になることも目指しました。



これまでのご協力に深く感謝いたします。加えて今年度からコロナ禍で中止していた健康教室を再開しました。令和7年6月に骨粗鬆症、10月に認知症をテーマに当院会議室で開催し好評を得ています。今後も季節ごとに皆様の健康に役立つ疾患を選び話題提供してゆく予定ですので、是非ご参加ください。

この10月1日に循環器内科を専門とする篠崎毅院長にバトンを引き継ぎました。仙台医療センター副院長の経験を生かし、盛岡医療センターが当地域に必要な医療を提供する病院として発展してゆく舵取りをしてくれるとの確信しています。私は9月30日付けで名誉院長の称号をいただき、これまで通り呼吸器内科医として当院ならびに地域医療に貢献してゆく所存です。これからもよろしくお願いいたします。



【採用情報】職員を募集しています

●職員募集中 【障害者雇用】事務助手 若干名

●問い合わせ先 管理課 杉谷 電話:019-647-2195
E-mail: 109-kanri@mail.hosp.go.jp



盛岡医療センター
公式サイト

